

総合ゼミ報告——今年度（2021年度）の実施状況

紅村兆乃 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学）

1. はじめに

音楽学研究総合ゼミ（以下、総合ゼミ）では、音楽学コース所属の学生と教員が週に一度集まり、それぞれの研究発表および意見交換を行っている。学生と教員とが同じ立場で発表し意見を交わすための場として設けられた「音楽学コロキウム」を前身とし、2008年度に「音楽学研究総合ゼミ」としてカリキュラムに組み込まれた。音楽学コースの学部生は必修の授業である。

音楽学コースの学生や教員による研究発表のほか、学外の研究者や講師による講義も行われる。例年、様々な分野の専門家にご協力いただき、その内容は音楽学分野にとどまらず多岐にわたっている。本年度は、新型コロナウイルスの影響から開講回数が少なかったものの、音楽・美術の両芸術分野において豊かな学びの機会が得られた。

以下に、学生による研究発表以外の講座について報告する。

2. 2021年度の総合ゼミにおいて行われた講座

- 4月22日（木） 井上さつき（愛知県立芸術大学教授・音楽学）
「楽器と関税—1920年代日本のピアノ輸入税引上げをめぐる—」

- 5月13日（木） 東谷護（愛知県立芸術大学教授・音楽学）
「1960年代における地域の音楽文化を考える
—労音運動を手がかりとして—」

- 5月20日（木） 畑陽子（愛知県立芸術大学・博士後期満期修了）
「1920年代～1950年代の米国におけるラテン音楽の形成
—キューバ音楽からラテン音楽へ—」

- 5月27日(木) 小林英樹(愛知県立芸術大学名誉教授・美術学部油画)
「《デルフトの眺望》作品の本質に迫る—鑑賞的視点を踏まえて—」

- 6月3日(木) 奥中康人(静岡文化芸術大学教授)
「軍隊ラッパはどのように用いられたのか?
—西南戦争における陸軍の喇叭暗号をめぐって—」

- 6月24日(木) 東谷護(愛知県立芸術大学教授・音楽学)
「新たに受け入れたポピュラー音楽関連の資料の紹介」

- 7月8日(木) 山本宗由(愛知県立芸術大学・博士後期3年)
「出版物からみる南葵音楽文庫
—所蔵資料を活用した翻訳資料と主題目録の刊行から—」

- 11月11日(木) 小林英樹(愛知県立芸術大学名誉教授・美術学部油画)
「絵画というものの奥深さ
—レオナルド《受胎告知》《岩窟の聖母》をもとに考える—」

- 12月9日(木) 井上さつき(愛知県立芸術大学教授・音楽学)
「戦後の万博と音楽
—1958年ブリュッセル万博から1970年大阪万博まで—」